

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭60-80935

⑬ Int.Cl.<sup>4</sup>

B 60 N 1/08

識別記号

庁内整理番号

B-8008-3B

⑭ 公開 昭和60年(1985)5月8日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 シートのスライドロック装置

⑯ 特 願 昭58-188513

⑰ 出 願 昭58(1983)10月11日

⑱ 発 明 者 松 田 浩 一 厚木市岡津古久560-2 日産自動車株式会社テクニカルセンター内  
⑱ 発 明 者 近 藤 信 明 厚木市岡津古久560-2 日産自動車株式会社テクニカルセンター内  
⑱ 発 明 者 田 中 裕 二 横浜市保土ケ谷区東川島町1番地の3 池田物産株式会社内  
⑲ 出 願 人 日産自動車株式会社 横浜市金沢区宝町2番地  
⑲ 出 願 人 池田物産株式会社 横浜市保土ケ谷区東川島町1番地の3  
⑲ 代 理 人 弁理士 三好 保男 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

シートのスライドロック装置

2. 特許請求の範囲

シートを一方のスライド装置によりスライド可能に支持するとともに、前記一方のスライド装置側にシート前方へ延びた操作レバーによって操作され前記シートをスライドをロック及び解除する第1のロック機構を設け、他方のスライド装置側に上記操作レバーをリリースワイヤを介して連動し前記シートをスライドをロック及び解除する第2のロック機構を設けたシートのスライドロック装置において、前記第2のロック機構側に、リリースワイヤの連結装置をすらすリンク機構を介設したことを特徴とするシートのスライドロック装置。

3. 発明の詳細な説明

(イ) 産業上の利用分野

この発明は車両のフロントシートなどにおける

シートのスライドロック装置に関する。

(ロ) 従来技術

自動車などのフロントシート等では、車体前後方向にスライド可能に設けられ、乗員の好みに応じてその位置を任意にロックできるスライドロック装置が設けられている。

このような従来のスライドロック装置としては、たとえば、第1図ないし第5図に示すようなものがある。すなわち、1はフロントフロアで、このフロントフロア1には一方のガイドレール2、3、が固定され、これらガイドレール2、3と共にスライド装置を構成するスライドレール4、5が車体前後方向へスライド自在に設けられている。そして、これらスライドレール4、5の上部にシート6が固定されている。また、インナ側のスライドレール4にはシート前方へ延びた操作レバー7によって操作される第1のロック機構8が設けられ、アウト側のスライドレール5には第2のロック機構9が設けられている。そして、上記第1のロック機構8の操作レバー7はリリースワイヤ1

0を介して第2のロック機構9のロックプレート11に連結され、操作レバー7を矢印方向に回転させることにより第1のロック機構8のロックプレートが回転してロックが解除され、これと同時にリリースワイヤ10を介して第2のロック機構9のロックプレート11が矢印方向に回転してロックが解除されるようになっている。

ところで、このような従来のスライドロック装置では、第1のロック機構8及び、第2のロック機構9が双方ともスライドレール4、5の略中央部にあるため、双方を連結するリリースワイヤ10もスライドレール4、5の略中央部、換言すればシート6前後方向略中央部を横断する状態で位置する。このため、リリースワイヤ10はシート6の下面において、乗員着座時の尻部下に位置するから、体重の重い乗員等の場合にはシート6の陥没によってシート6の下面が第2図破線のようにリリースワイヤ10に干渉してロック解除操作の邪魔になった。特に最近では、座り心地向上のためにシート6の座面を下げる傾向にあるため、

シート6の下面の干渉による不具合がより大きな問題となる恐れがある。また、リリースワイヤ10がシート6の前後中央部に位置するため、シート6の下面へ入れた後部乗員の足先がリリースワイヤ10に接触してロック機構8、9が誤作動する恐れがあり、更には乗員がリリースワイヤの上に座って異和感を生じるという問題点があった。

こうした問題点に対し、スライドレール4、5に対してロック機構8、9の位置をシート6前方へずらすことも考えられるが、その分がイドレール2、3を延長しなければならないという新たな問題を生ずる。

#### (ハ) 発明の目的

この発明は上記問題点に着目してなされたもので、ロック機構の位置を変えることなくリリースワイヤの位置を変えることができ、シート下面とリリースワイヤとの干渉による不具合を防止し得るシートのスライドロック装置を提供する。

#### (ニ) 発明の構成

上記目的を達成するためにこの発明は、シートを

- 3 -

一対のスライド装置によりスライド可能に支持するとともに、前記一方のスライド装置側にシート前方へ延びた操作レバーによって操作され前記シートのスライドをロック及び解除する第1のロック機構をも設け、他方のスライド装置側に上記操作レバーにリリースワイヤを介して連動しシートのスライドを設けたシートのスライドロック装置において、する第2のロック機構を設けたシートのスライドロック装置において、前記第2のロック機構側に、リリースワイヤの連結位置をずらすリンク機構を介設した。

#### (ホ) 実施例

以下、この発明の一実施例を第6図ないし第8図に基づいて説明する。

まず構成を説明すると、21はガイドレールインナで、22はガイドレールアウトである。ガイドレールインナ21およびガイドレールアウト22にはこれらと共にスライド装置を構成するスライドレール23、24が車体前後方向へスライド自在に設けられている。そして、これらスライド

- 4 -

レール23、24上にはシート(図示せず)が支持されていて、乗員の好みに応じてシートを前後方向に移動できるようになっている。また、ガイドレールインナ21のスライドレール23には第1のロック機構25が設けられている。この第1のロック機構25はロック解除操作をする操作レバー26を有し、この操作レバー26はシート前方へ延びている。また、上記ガイドレールアウト22は断面がほぼコ字状をなしており、この折曲部28、28には同じく断面がコ字状のスライド棒29の折曲部30、30がスライド自在に係合している。そして、このスライド棒29に上記スライドレール24が一体的に固定されている。このスライドレール24は断面がし字状をなしており、その天板部31は上記ガイドレールアウト22上面と密着している。また、このガイドレールアウト22の側面、すなわちガイドレールインナ21と対向する側面は長手方向に多数の係合孔32…が等間隔に穿設されている。さらに、上記スライドレール24の長手方向ほぼ中間部に位置

- 5 -

- 6 -

する天板部31にはロックプレート33が枢支軸34を支点として回動自在に枢着されている。このロックプレート33の一端にはコ字状の折曲部35が一体に突設され、この折曲部35には隣接する2つの係合孔32、32に動じに係合可能なロック爪36、36が併設されている。また、ロックプレート33の他端には突片37が一体に突設され、この突片37と上記スライドレール24との間にはスプリング38が張設されている。そして、このスプリング38の付勢力によってロックプレート33のロック爪36、36が係合孔32、32に係合するようになっている。さらに、上記ロックプレート33より前方の上記スライドレール24の天板部31の下面には回動プレート39が枢支軸40によって回動自在に枢着されている。この回動プレート39はし字状をなし、その一端部41はスライドレール24の側壁から突出している。そして、この回動プレート39の一端部41と上記ロックプレート33の突片37とはリンク42によって連結されている。さらに、

- 7 -

2、32から外れ、第2ロック機構45のロックも解除される。(第8図(B)参照)したがって、スライドレール23、24はシート前後方向にスライド自在となり、シートの位置を可変することができる。また、操作レバー26を解放すると、スプリング38の復元力によってロックプレート33は矢印d方向と逆方向に回動してロック爪36、36は係合孔32、32に係合してロックされ、リンク42を介して回動プレート39も復動する。したがって、リリースワイヤ44も矢印a方向と逆方向に引かれ、第1のロック機構25もロックされることになる。(第8図(A)参照)

このように、リリースワイヤ44を回動プレート39に連結し、この回動プレート39をリンク42を介してロックプレート33に連動させることにより、第2のロック機構45のロックプレート33の位置を変更することなく、回動プレート39及びリンク42を介するだけでリリースワイヤ44の連結位置をシート前方へ移動できる。また、第1のロック機構25側では、操作レバー2

回動プレート39の他端部43はスライドレール24の下面に位置しており、この端部にはリリースワイヤ44の一端が連結されている。従って、回動プレート39とリンク42とは、第2のロック機構45に対してリリースワイヤ44の連結位置をずらすリンク機構を構成している。そして、このリリースワイヤ44の他端部は上記操作レバー26のシート前方部に連結されており、リリースワイヤ44は全体としてシート前方へ位置ずれて配置されている。

つぎに、作用について説明する。まず、操作レバー26を回動すると、第1のロック機構25のロックが解除されるとともに、リリースワイヤ44が第7図のように矢印a方向に引張られる。したがって、回動プレート39に枢支軸40を支点として矢印b方向に回動し、これによってリンク42が矢印c方向に引かれる。リンク42が引かれると、ロックプレート33はスプリング38の復元力に抗して枢支軸34を支点として矢印d方向へ回動偏位し、ロック爪36、36は係合孔3

- 8 -

6をそのまま利用してリリースワイヤ44の連結位置をシート前方へ移動できる。したがって、リリースワイヤ44の位置をシートの乗員着座時における尻下からシート前方へずらして位置させることができ、シート下面とリリースワイヤ44との干渉防止することができる。

#### (ハ)発明の効果

以上説明したように、この発明によれば、シート前方へ延びた操作レバーのない第2のロック機構側に、リリースワイヤの連結位置をずらすリンク機構を介設したので、第1、第2のロック機構をそのままの位置にしてリリースワイヤをシート前方側へ位置ずれて配置することが可能となる。このため乗員着座時のシート下面とリリースワイヤとの干渉による不具合を解消でき、座心地向上のためにシートの着座面を下げることも可能となる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図ないし第5図は従来例を示すもので、第1図はシートの側面図、第2図は同じく正面図、

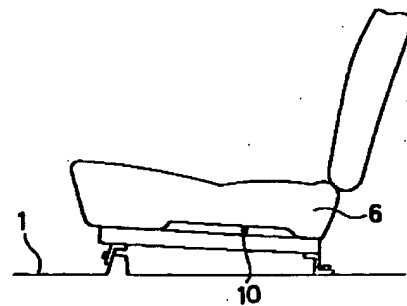
第3図はスライドロック装置の斜視図、第4図は第3図のIV-IV線に沿う断面図、第5図は第3図のV-V線に沿う断面図、第6図ないし第8図はこの発明の一実施例を示すもので、第6図はスライドロック装置の斜視図、第7図は第2のロック機構を拡大して示す斜視図、第8図(A)、第8図(B)は作用説明図である。

- 21…ガイドレールインナ(スライド装置)
- 22…ガイドレールアウト(スライド装置)
- 23、24…スライドレール
- 25…第1のロック機構
- 26…操作レバー
- 39…回転プレート(リンク機構)
- 42…リリースワイヤ
- 45…第2のロック機構

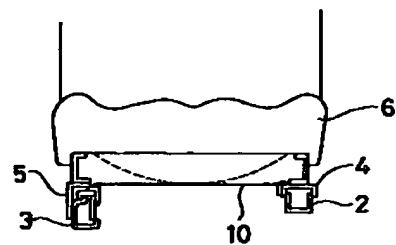
代理人 弁理士 三 野 保 男

特許  
代理人  
三野保男

第1図



第2図



- 11 -

図3

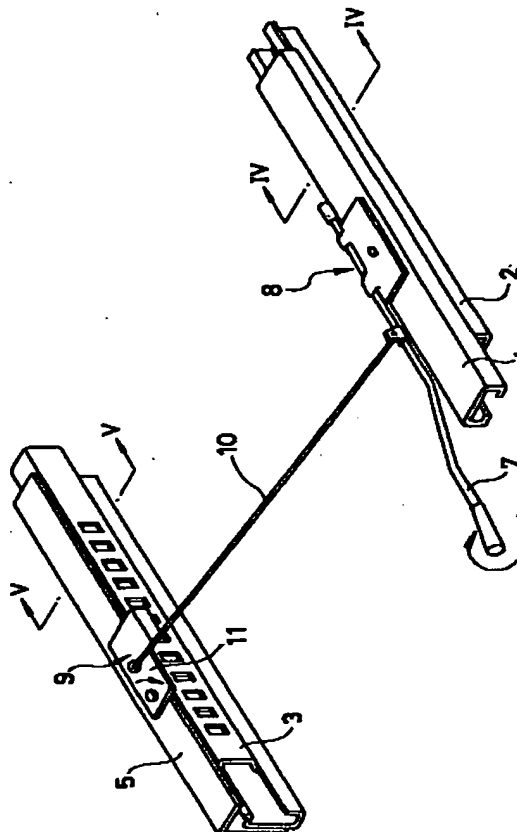


図4

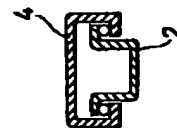
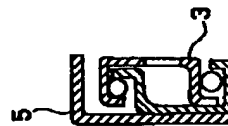
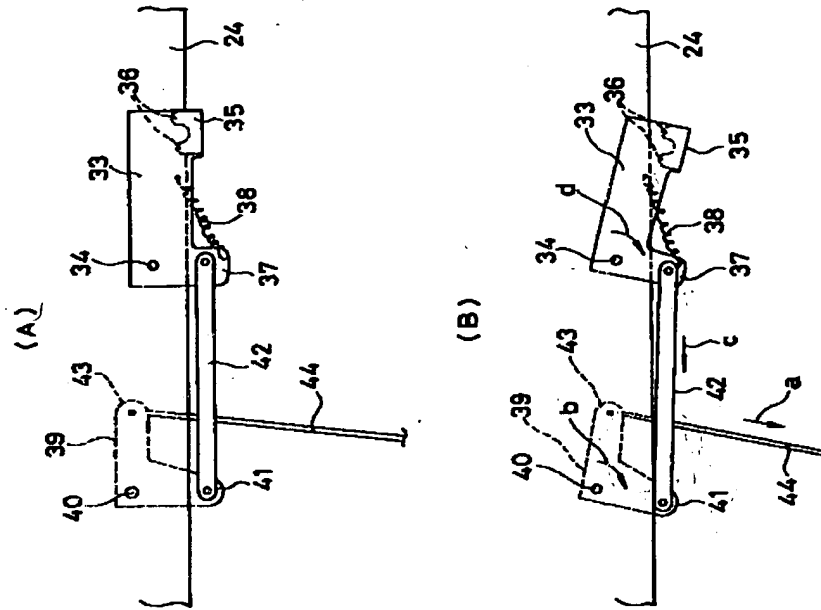


図5









**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☒ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**